

1 活動のねらい

燃え上がる炎を囲み、神秘的な炎を見つめながら活動を振り返ったり、自分の生活を振り返ったりすることで、互いの心を開放しあい友情を深めます。

2 育てたい能力

A4 交友・協調

B1 節度・節制

A5 自己肯定

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

- ・冒険広場（上部・下部）
- ・見晴らし広場
- ・野外炊事場
- ・すりばち広場
- ・星空広場
- ・キャンプ場営火場



4 活動時期

4月～11月 ※工作館では、通年活動が可能です。

5 所要時間

1.5～2 時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

- ・マッチ（チャッカマン）
- ・トーチ
- ・薪（食堂売店で購入可） 1束 600円
- ・活動に適した服装

【自然の家で貸し出しできるもの】

- ・アンブセット（マイク、テープ使用可）
- ・電源ドラム
- ・CD ラジカセ

8 活動の手順

実施例

①全体で一つの火を囲み実施する方法

*語らいを中心にして、たき火を囲んでゆっくりと夜を過ごします。

- 集合→火おこし→語らい→まとめ→消火→解散→後方づけ
- 火おこし→自由集合→語らい→自由解散→消火→後片づけ

②グループごとに火をつくり実施する方法

*野外学習として自然を積極的に取り入れ、ゆったりとした時間の中で行います。

- 星空の観察、星にかかわる話、神話を取り入れます。
- 野外動物に関する話を取り入れます。
- ネイチャーゲーム（五感を使ったゲーム、夜の音を聞く）を取り入れます。
- 発達段階に応じた話を取り入れます。

③全体の火をグループに分火して実施する方法

*火と生活との関係に着目した活動を取り入れます。

- 野外炊事→ボンファイヤー

④野外炊事の残り火にファイヤー用の薪をつけたして実施する方法

*夜の神秘性を感じ取ると同時に野外生活における火に着目した活動を取り入れます。

- 野外炊事→ボンファイヤー→ナイトハイク→ボンファイヤー

⑤個人の火おこし体験からグループの火や全体の火へつなげて実施する方法

*テーマに沿って、考える時間として設定します。

- 全体の火（テーマの説明）→グループごとの火（グループの語らい）→全体の火（まとめ）

9 留意点

- ボンファイヤーには、定形がありません。プログラムの流れをふまえて、ねらいに沿った活動を考えてください。
- 薪は、水に濡らしていない、火をつけていない、灯油をかけていない状態であれば返品が可能です。
- 火気が残っている場合は、その場を離れないでください。火床の残り火は完全に消してください。
- 終了後必ず事務室にご報告ください。
- 翌朝の清掃時に火床の始末をしてください。
- 灯油入れは、野外炊事材料受け取り場所のボックスの中に返却してください。



野外炊事材料受け取り場所
入って右側にあります。

